

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, July, 2004

課長 関 勉 T. Seki

幹事 佐藤裕久 H. Sato

幹事 松本敏一 T. Matsumoto

幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

1. 7月の状況 (佐藤)

7月に入って国内は天気が悪く、豪雨・台風・落雷の被害が多かった。彗星関係者の中にも被害を受けた方がかなりいるのではないだろうか。お見舞い申し上げます。

そのような状況下国内の彗星観測の数は少ないが、C/2000 K4 (LINEAR)は確実に増光していた(写真a,b)。一方、C/2001 Q4 (NEAT)はだいぶ光度が落ちて以前のような尾は見られなくなっていた(写真c)。



(写真a) C/2003 K4 (LINEAR) 2004,07,16

21h 40m (UT) exp. LRGB 各 150 sec

Schmidtcamera 200/300mm + CCD

© Michael Jäger and Gerald Rhemann



(写真b) C/2003 K4 (LINEAR) 2004,07,20

20h 52m~21h 00m (JST) exp. 8 m 60cm L + TM400

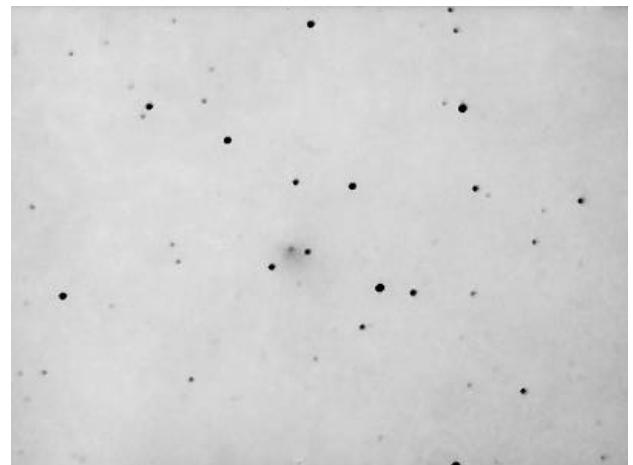
芸西天文台 関 勉



(写真c) C/2001 Q4 (NEAT) 2004,07,13

22h 33m~22h 36m (JST) exp. 3 m 60cm L + TP6415

芸西天文台 関 勉



(写真d) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 2004,07,29

1h 42m~1h 56m (JST) exp. 14 m 60cm L + TP6415

芸西天文台 関 勉

C/2004 H6 (SWAN)は、comet-obs 0528 によると長野市の永井佳実氏が7月13.76日UTに32cm 反射 x58 により眼視で全光度9.2等、Dia 4.5'、DC 1と観測したが非常に拡散してやっと確認できたとのことである。海外では、Juan José González(スペイン)が7月21.05日UTに8cm x11 双眼鏡で全光度8.7等、Dia 6'、DC 2と観測し、7月26.08日UTには同じ20 cm SCT x77で全光度10.5等、Dia 6'、DC 2と観測した。

C/2003 T3 (Tabur)は、永井佳実氏が7月13.75日UTに32cm 反射 x87で10.9等、Dia 1.4'、DC 4と観測し、Juan José Gonzálezは7月26.09日UTに20 cm SCT x77で全光度10.9等、Dia 2'、DC 3と観測した。

C/2002 T7 (LINEAR)はAlexandre Amorim (Florianopolis, ブラジル)によって7月21.90日UTに14.3cm 反射 x112で全光度11.0等、DC 1と眼視観測されている。ほとんど集光がみとめられないほど拡散していた。

その他比較的明るい彗星は、88P/Howell、29P/Schwassmann-Wachmann 1(写真d)などであった。新彗星の発見はなかった。

2. トピックス (佐藤)

☆ 彗星に似た軌道の小惑星 2004 NN8 の発見

MPEC 2004-009はSiding Spring Surveyが7月13日、小惑星2004 NN8を発見したと報じた。逆行の軌道であった。軌道は1999 LE31と(20461) Dioretsaの軌道に類似しているとの仮定に基づいていた。ただ観測は4日間46個と少なく周期は大変不安定である。

2004 NN8

Epoch 2004 July 14.0 TT = JDT 2453200.5				MPC
M	358.07128	(2000.0)	P	Q
n	0.01696520	Peri. 265.23455	-0.17907809	-0.98147186
a	15.0001876	Node 164.40836	-0.77187094	+0.18310850
e	0.8466537	Incl. 165.31275	-0.61003794	+0.05642924
P	58.1	H 15.3	G 0.15	

From 46 observations 2004 July 13-16. E-assumed.

同じ観測から放物線軌道を求めると次のようであった。

2004 NN8

T 2004 Oct. 23.0960 TT				Sato
q	2.358519	(2000.0)	P	Q
		Peri. 261.8115	-0.1086276	-0.9919574
		Node 165.0991	-0.7832550	+0.1256493
e	1.0	Incl. 165.3662	-0.6121370	+0.0152556

From 45 observations 2004 July 13-16, mean residual 0".27.

その後 MPEC 2004-040 によると7月21日までの61個の観測が得られ、軌道半長経 a が279.03138、周期4661年の軌道が求められている。しかし、1夜の観測が加わるだけで周期が大きく変化しており、周期が落ち着くまでは時間がかかりそうである。